



過去 30 年間で日本人の高血圧に対する肥満の影響が増加

国民栄養調査参加者の疫学研究 NIPPON DATA の結果より

本学、アジア疫学研究センターの三浦克之センター長が研究代表者をつとめる厚生労働省研究班（指定研究）の NIPPON DATA 研究より、日本人の高血圧に対する肥満の影響が、過去 30 年間で増加していることが明らかになり、日本高血圧学会の学会誌「Hypertension Research」電子版で公開されています。

POINT

- ・ 厚生労働省が 1980 年、1990 年、2000 年、2010 年に実施した国民栄養調査と循環器疾患基礎調査（現：国民健康・栄養調査）に、全国から参加した 30-79 歳の男女、それぞれ 10,370 人、8,005 人、5,327 人、2,457 人を解析しました。
- ・ 過去 30 年間に於いて、日本人の高血圧に対する肥満の影響の大きさがどのように変化したかを分析しました。
- ・ 適正体重（BMI 18.5 以上 25 未満）の人に対して、肥満（BMI 25 以上）の人が何倍高血圧になりやすいかを算出したところ、男性では 1980 年の 1.9 倍から 2010 年には 2.8 倍まで増加し、女性では 1980 年の 2.4 倍から 2010 年には 3.5 倍まで増加しました。
- ・ 近年は減塩などの生活習慣の改善によって、日本人の高血圧に対する肥満の影響は相対的に次第に強くなってきており、国民の高血圧予防のためには肥満防止対策をさらに強める必要があると考えられました。

※BMI (Body Mass Index) = 体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))

つきましては、本件について広く周知いたしたく、報道方よりしくお願いいたします。

（別紙）内容詳細 2 枚

《詳細に関するお問い合わせ先》

滋賀医科大学 社会医学講座 教授
アジア疫学研究センター長 三浦 克之
TEL：077-548-2191

《プレスリリース発信元》

滋賀医科大学 企画調整室（叶・大知）
TEL：077-548-2012
e-mail：hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp

内容詳細

過去 30 年間で日本人の高血圧に対する肥満の影響が増加

国民栄養調査参加者の疫学研究 NIPPON DATA の結果より

国民栄養調査（現：国民健康・栄養調査）の参加者を対象としたNIPPON DATA（ニッポンデータ）研究において、高血圧に対する肥満の影響が過去30年間で増加していることが明らかになった。この論文は日本高血圧学会の学会誌「Hypertension Research」電子版で公開されている。NIPPON DATA研究は現在、厚生労働省研究班（指定研究）（研究代表者：滋賀医科大学アジア疫学研究センター長 三浦克之）として実施されている。

本研究の解析対象者は、厚生労働省が1980年、1990年、2000年、2010年に実施した国民栄養調査と循環器疾患基礎調査（現：国民健康・栄養調査）に参加した30-79歳の男女、それぞれ10,370人、8,005人、5,327人、2,457人である。国民栄養調査は、日本全国から無作為抽出された300地区の一般地域住民を対象に実施されたものである。肥満の定義は肥満度（BMI¹）25kg/m²以上とし、高血圧症の定義は140/90mmHg以上または降圧剤内服中とした。

1980年から2010年までの30年間の肥満の年齢調整有病率（以下、有病率）（%）は、男性は17.4%ポイント増加して2倍近くになったが（1980年：18.2%，2010年：35.6%）、女性は1.4%ポイント減少していた（1980年：22.9%，2010年：21.5%）。高血圧症の年齢調整有病率（以下、有病率）（%）は、男女ともに減少していた（男性 1980年：54.2%，2010年：50.1%，女性 1980年：47.4%，2010年：37.8%）。

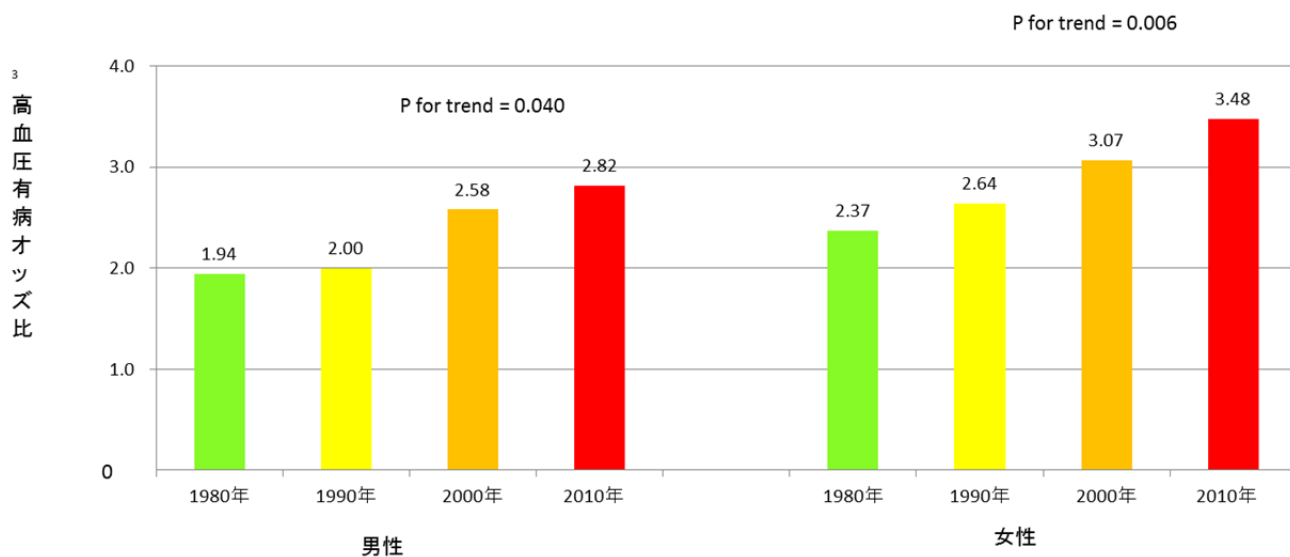
適正体重（BMI 18.5以上25未満）の人に対して、肥満（BMI 25以上）の人が何倍高血圧になりやすいかについて、年齢、塩分摂取量、飲酒量等の交絡因子を調整した高血圧有病オッズ比を算出して確認した。男性ではこの値が1980年の1.9倍から2010年には2.8倍まで増加し、女性では1980年の2.4倍から2010年には3.5倍まで増加した。

以上の結果より、日本人の高血圧に対する肥満の影響は過去30年間で次第に大きくなってきていることが分かった。近年のわが国の高血圧の有病率は、減塩等の生活習慣の改善によって男性は微減、女性は大きく減少しており、その傾向は肥満者においても同様である。かつては日本人の高血圧には高い食塩摂取、低い野菜摂取、多量飲酒などの影響が大きかったが、近年はこれらの影響が減少し肥満の影響が相対的に増加してきていると考えられる。日本では肥満が増加傾向であり、今後、高血圧有病率が上昇に転じることが心配される。国民の高血圧予防のためには、肥満防止対策をさらに強める必要があると考えられた。

1) BMI (Body Mass Index) = 体重(kg) ÷ (身長(m) × 身長(m))

Masato Nagai, Takayoshi Ohkubo, Yoshitaka Murakami, Naoyuki Takashima, Aya Kadota, Naoko Miyagawa¹, Yoshino Saito, Nobuo Nishi, Nagako Okuda, Yutaka Kiyohara, Hideaki Nakagawa, Yoshikazu Nakamura, Akira Fujiyoshi, Robert D Abbott, Tomonori Okamura, Akira Okayama, Hirotsugu Ueshima and Katsuyuki Miura for the NIPPON DATA80/90/2010 Research Group. Secular trends of the impact of overweight and obesity on hypertension in Japan, 1980-2010. Hypertension Research advance online publication, 16 July 2015; doi:10.1038/hr.2015.81

過去30年間で日本人の高血圧¹に対する肥満²の影響が増加
国民栄養調査参加者の疫学研究 NIPPON DATA の結果より



1 高血圧の定義: 140/90mmHg 以上 かつ/または 降圧剤治療中

2 肥満の定義: BMI $\geq$ 25kg/m² 以上

3 高血圧有病オッズ比: 適正体重者(18.5<BMI<25kg/m²)を対照(1.0)とした場合の肥満(BMI $\geq$ 25kg/m²)の高血圧有病オッズ比
(オッズ比は年齢, 喫煙習慣, 飲酒量, 塩分摂取量を調整した)

BMI: Body Mass Index = 体重(Kg)÷(身長(m)×身長(m))